

SCOUTING

スカウティング

Scout Association of Japan www.scout.or.jp

平成18年9月1日発行 毎月1回1日発行 第640号 昭和33年12月15日 第3種郵便物認可

NO.640 2006/9



- 第14回日本ジャンボリー速報
- 全国ボーイスカウトゆかりの地探訪 番外編
- スカウトの日 2006



財団法人

ボーイスカウト日本連盟

「あいの風」を受けて……スカウトたちの熱い5日間。

14TH NIPPON JAMBOREE

AUG./3~7/2006

ISHIKAWA, SUZU



大集会でお言葉を述べられる皇太子殿下

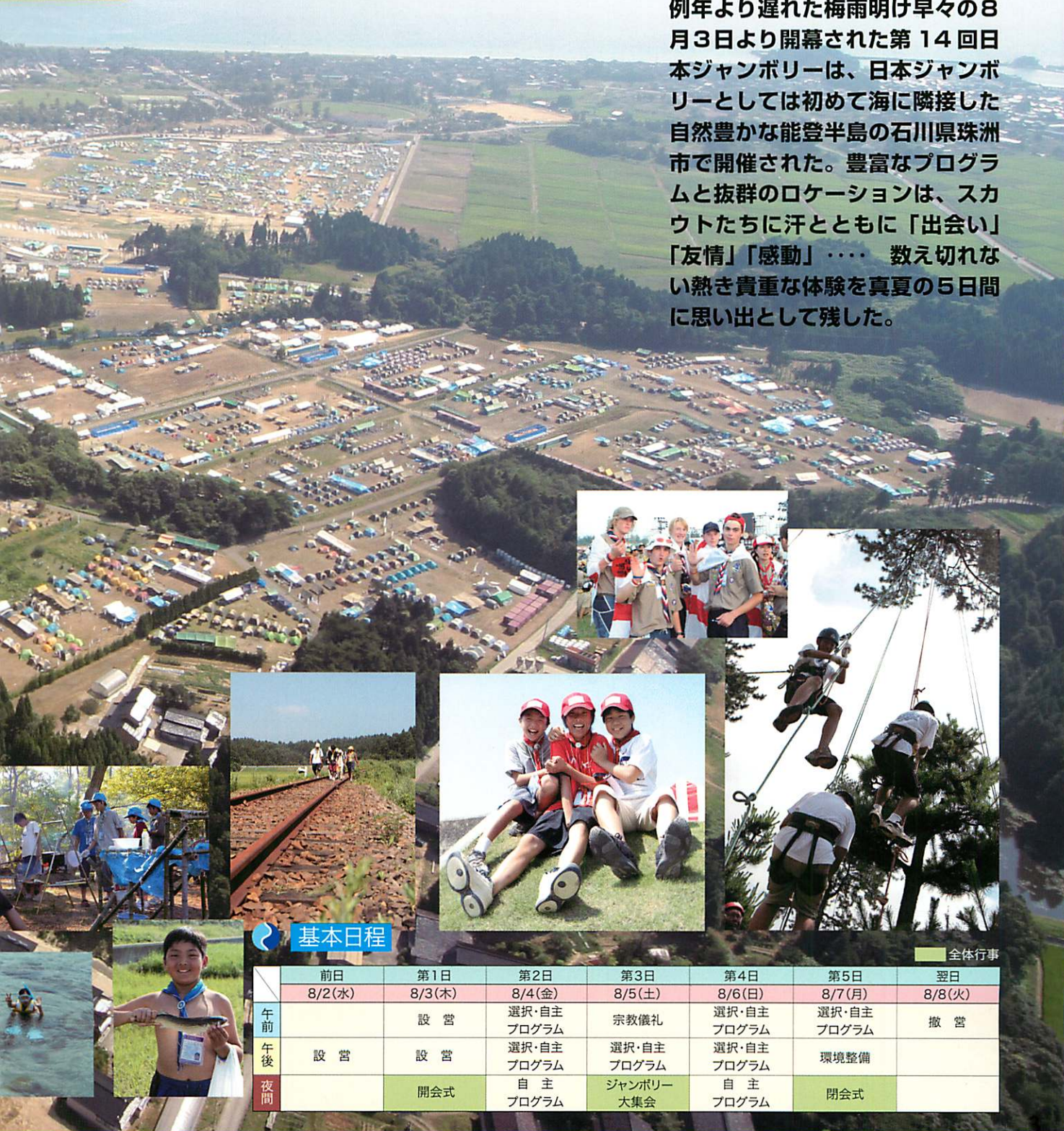


橋本綱夫 大会長
(日本連盟理事長)



野口聡一宇宙飛行士





テーマ

「風の不思議を突っ走れ！」 — Scouts Wave 100 —

例年より遅れた梅雨明け早々の8月3日より開幕された第14回日本ジャンボリーは、日本ジャンボリーとしては初めて海に隣接した自然豊かな能登半島の石川県珠洲市で開催された。豊富なプログラムと抜群のロケーションは、スカウトたちに汗とともに「出会い」「友情」「感動」…… 数え切れない熱き貴重な体験を真夏の5日間に思い出として残した。



基本日程

全体行事

	前日 8/2(水)	第1日 8/3(木)	第2日 8/4(金)	第3日 8/5(土)	第4日 8/6(日)	第5日 8/7(月)	翌日 8/8(火)
午前		設 営	選択・自主 プログラム	宗教儀礼	選択・自主 プログラム	選択・自主 プログラム	撤 営
午後	設 営	設 営	選択・自主 プログラム	選択・自主 プログラム	選択・自主 プログラム	環境整備	
夜間		開会式	自 主 プログラム	ジャンボリー 大集会	自 主 プログラム	閉会式	



来賓の方々の挨拶



歓迎の言葉
谷本 正憲 石川県知事 (連盟長)

全国からお集まりのスカウトの皆さん、こんばんは。

第14回日本ジャンボリーが本日から、ここ石川県の珠洲市鉢ヶ崎の地において開催されますことを、大変嬉しく思います。

スカウトの皆さん並びに関係者の皆様、ようこそ、石川の地にお越しいただきました。皆様のご来県を石川県民を代表して心より歓迎申し上げます。

ここ珠洲市鉢ヶ崎は美しい海岸を有し、砂浜に近い会場は今回が初めてです。カヌー体験やスノーケリングなど能登の豊かな海を生かしたプログラムや、揚げ浜式塩田での塩づくりなど、この地ならではの体験が企画されています。また、キャンプ生活の原点を再認識する意味からも地元森林組合の協力を得て「薪」を使用し、また食材には石川の食材も用意されています。ぜひ、スカウトの皆さんには、能登の豊かな自然や文化に触れていただきたいと思います。

私自身も、4年間ボーイスカウト活動を行っていました。第2回日本ジャンボリーにも参加し、そこでの交流は、今でも記憶に残っています。

スカウトの皆さん。交流の輪を広げ、能登の魅力を満喫し、そして、たくさんの思い出、出会いをつくっていただくことを念願し、歓迎の言葉とさせていただきます。



内閣総理大臣挨拶

内閣総理大臣 小泉 純一郎
(代読 塩谷 立 衆議院議員)

本日、第14回日本ジャンボリーが盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

ボーイスカウト運動は、野外活動や社会奉仕活動を通して、仲間たちと切磋琢磨し、リーダーシップや創造性、協調性や奉仕の精神を養う大変意義深い活動です。次代を担う青少年の健全な育成が求められる今日、その果たす役割に益々大きな期待が寄せられています。

諸君がこの素晴らしい大自然の中で、日頃の活動の成果を思う存分発揮されとともに、日本全国や諸外国の仲間たちと友好の絆を深め、今後の人生の糧となる有意義なジャンボリーとなることを期待します。

終わりに、本大会の開催にご尽力された関係者の皆様に心から敬意を表しますとともに、本大会の成功とボーイスカウト運動の益々の発展を祈念し、私の挨拶といたします。



馳文部科学副大臣挨拶

文部科学副大臣 馳 浩

第14回日本ジャンボリーがこのように盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。

日頃から皆さんがボーイスカウト活動に励まれていることに対し、また指導者の方々が青少年の健康な育成のためにご尽力されていることに対し、深く敬意を表するところであります。

我が国が、真に豊かで教養のある国家としてさらに発展していくためには、新しい時代を切り拓く、心豊かでたくましい人材の育成が必要であります。そのためには未来を担う青少年が豊かな心を育むため、自然体験や社会体験の機会の充実を図ることが重要であり、ボーイスカウト活動に期待されるところは極めて大きいと考えています。

本大会において、多くの仲間たちと友情を深め、様々な文化や知識、技能を習得され、楽しく思い出深いジャンボリーとなりますことを期待いたします。

皇太子殿下のお言葉

第14回日本ジャンボリーの大集会に、国内外から参加されたスカウトの皆さんとともに出席できることを、大変嬉しく思います。

能登では、古く万葉の時代より海から吹く風を「あいの風」と呼び、この風が大陸の文化や人々を珠洲の地に運び、この風によって能登の豊かな風土と独自の文化が育まれました。こうしたことから、今回のジャンボリーは「風の不思議を突っ走れ!」—Scouts Wave 100—をテーマにしたと聞いております。

世界のスカウト運動は、1907年に英国で実験キャンプを行ってから、明年100周年を迎えますが、この大会にも海外から多くのスカウトが参加されており、スカウト運動の国際性はよく示されていると思います。

スカウトの皆さんは、この珠洲の海辺に面したキャンプ地で開催する初めてのジャンボリーで、自らが「あいの風」のように多くのプログラムに参加し、能登の豊かな自然と文化に触れるとともに、この地域の人々と交流することにより多くの思い出をつくってください。また、日本のスカウトの皆さんも、ぜひこの機会に海外のスカウトの皆さんとの交流を深めてください。

私は第7回大会以来、このジャンボリーに出席していますが、スカウトの活動には自然の中で生活するための様々な知恵や工夫があり、それを身につけることがいろいろな形で、必ず将来の皆さん自身の役に立つものと信じています。

皆さんが、スカウト活動を通して互いに交流を深めるとともに、明日を担う国際人としての一層の研鑽を積まれることを、そしてスカウト運動が100周年を契機に、さらに発展することを願い、私の挨拶といたします。



野口宇宙飛行士からのメッセージ

宇宙飛行士 野口 聡一

皆さん、こんばんは。今日は過去の話と、今の話と、未来の話をしようと思っています。中学1年生のときの思い出なんです。

このパイオニア賞は28年前に初めて参加した第7回日本ジャンボリーのもので、大勢の仲間が同じ目標に向かってがんばっていくこと、仲間と一緒に何かを成し遂げることの大切さを最初に学んだのは、このパイオニア賞でした。今の話をしましょう。去年の話ですが、宇宙ステーションからボーイスカウトの皆さんへ電子メールを出しました。皆さんの活動はついに宇宙までひろがっていったというのが去年の夏だと思うんです。

最後に未来の話です。僕の未来、ボーイスカウト活動の未来、皆さん自身の未来がどこにあるのかというと、皆さん自身の中にあると思うんです。私が28年前に感じた感動と同じような感動を味わっている人はいっぱいいると思います。この先、宇宙ステーションからメッセージを送るのは君たちかもしれない。明るい未来に向かって、日々の活動をがんばってください。



挨拶（開会式）

橋本 綱夫 大会長（日本連盟理事長）

ボーイスカウト運動は1907年に創始者ベーデン・パウエル卿が実施した実験キャンプから始まり、本年は「世界スカウト運動100周年記念事業」を迎える年にあたります。その記念すべき年に開催する第14回日本ジャンボリーは100年の時の流れを振り返り、「スカウト運動の原点」を再確認するためです。

このジャンボリーでは日本全国はもとより世界の国々から参加する皆さんに、この「あいの風」の吹く能登の地において「共通の風」を体験していただきます。

多くの仲間とともに、各種のプログラムを体験することでお互いの歴史や文化を理解しあうことは、大きな意義があります。今大会で味わった感動が、皆さんが将来にわたって世界にはばたき、役立つ人材として、人生をより充実したものとする上で、大きな力となることを希望しています。

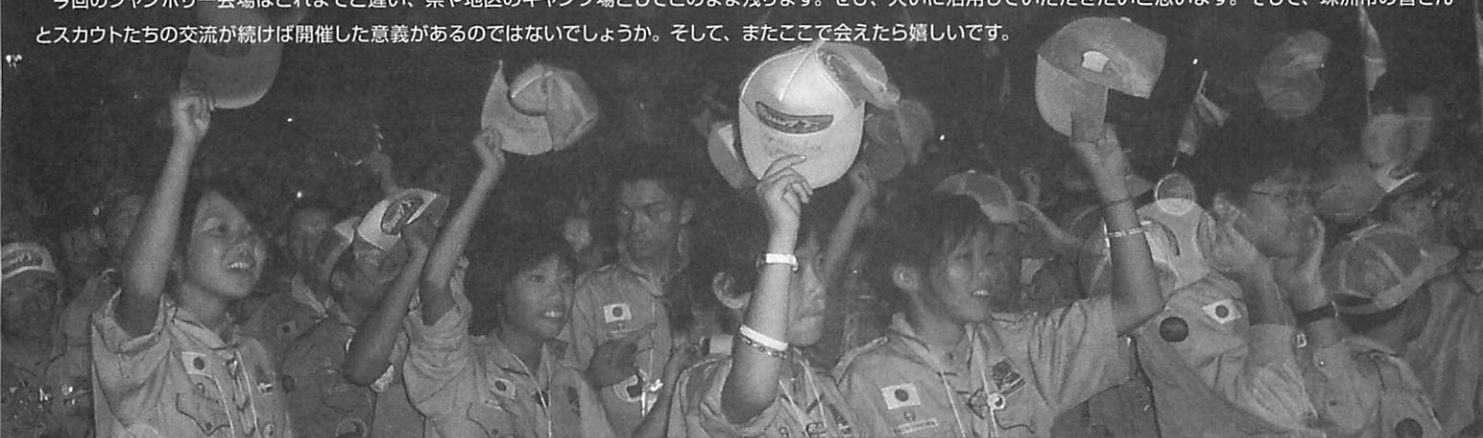
日本ジャンボリーを終えて

西村 稔 野営長（第14回日本ジャンボリー実行委員会委員長）

まずは心配していた天候が期間中好天に恵まれ、ほっとしています。スローライフ、ゆとりあるジャンボリーを目指した今回のジャンボリーでしたが、スカウトたちが生き生きと感じられました。皇太子殿下からもキャンプ生活の原点に還る、意義のあるものだのお言葉いただきました。また、ロシアからのスカウトが150人参加するなど多くの海外スカウトが参加し、当初は言葉のトラブルなどもありましたが、スカウト同士の交流があり嬉しく思います。

スカウトたちにとって心に残るジャンボリーであったなら、こんなに嬉しいことはないと思います。これもひとえにスカウト関係者や地域の皆さんのおかげと感謝しております。珠洲市にも非常によく協力していただきました。また、実行委員会を中心にそれぞれの部署がシミュレーションを重ね、よくがんばっていただきました。私も笑顔を保ち、準備も本番も取り組んできました。そして、今回の経験を次の大会につなげることが日本のボーイスカウトの歴史となり、ノウハウとなるのだと思います。

今回のジャンボリー会場はこれまでと違い、県や地区のキャンプ場としてそのまま残ります。ぜひ、大いに活用していただきたいと思います。そして、珠洲市の皆さんとスカウトたちの交流が続けば開催した意義があるのではないのでしょうか。そして、またここで会えたら嬉しいです。





友情

『僕らの大切なジャンボリー』

ジャンボリーに参加したスカウトや指導者の多くは長時間のバス移動。車内泊で珠洲に到着したスカウトたちは、目が覚めて、窓の外の光景にびっくり！どこまでもどこまでも広がる海。その水は透明で、泳いでいる魚もはっきりと見える！珠洲の豊かな大自然に、ジャンボリーへの期待はどんどん高まっていく！！

あいの国
東風

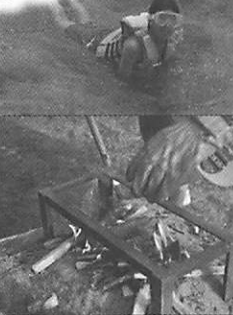
冒険



「勾玉作り」や「草細工」、珠洲特産の珪藻土を使った「珪藻土彫刻」など、自分だけのものを作って、持って帰れるプログラムは人気があった！
「ツリークライミング」では、まず木に挨拶！それから「もくもく体操」で準備はオッケー！階段を上がるくらいの脚力があれば大丈夫とのことで、みんな一生懸命登ったよ！！



情熱



毎日、暑くて暑くて大変だったけど、夜は意外にも涼しかった。ロールマットだけで寝ようとしたら、寒くて寝れなかったというスカウトも！でも、昼間元気いっぱい活動していたスカウトたちなので、みんなよく眠れたようだ！！



1SC

Welcome 1SC 迎

1SC (北海道・東北ブロック)

北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、
埼玉、神奈川、静岡、愛知から48 部隊が参加し
ました。会場の一番北に位置するサブキャンプであ
り、民家や牛舎が近く、乳牛からの搾乳を見学させ
ていただくなど地域の皆さんとの交流を多く持
てたのが1SCの特徴です。火起こしやシルバ
コンパスを使った実用的なサブキャンプ
プログラムもありました。

2SC

本ボーイスカウト
東京連盟
馬県連盟

3SC (関東ブロック)

埼玉、千葉、神奈川、山梨、大阪、ガール
スカウトから46 部隊が参加しました。大集会
での、ステージからロケットバルーンを夜空に打ち上
げるパフォーマンスは、照明にキラキラ光る様子が
強く印象に残りました。特設ステージでの交
歓プログラムにも、たくさんの方が
集まりました。

3SC

Welcome to 3SC

CONTRIBUTOR OF CATHOLIC SCOUT

KOREA SCOUT ASSOCIATION

4SC (中部ブロック)

千葉、東京、新潟、富山、石川、福井、長野、兵
庫、大阪から48 部隊が参加しました。大集会
での信濃踊りのパフォーマンスは、一番の盛り
上がりを見せていました。長野第6隊は照明な
どの電力にソーラー発電装置を使用。ペットボ
トルから水が少しずつ漏れることで、装置の向きが
変化し太陽を自動追尾します。また、黒いビニ
ールの中に水の入ったペットボトルを入れ、
お湯を作っていました。

4SC

5SC

5SC (中部ブロック)

千葉、岐阜、静岡、愛知、三重、大阪、ガール
スカウトから45 部隊が参加しました。木々が生
い茂る中でキャンプができた5SCは、アリーナ
やJHQにも近く、環境に恵まれました。自主プ
ログラムの「都上おどり」にもたくさん
の人が集まりました。

2SC (関東ブロック)

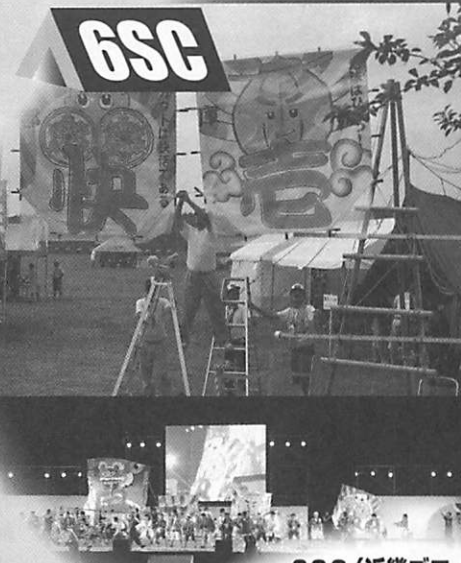
茨城、栃木、群馬、東京、愛知、兵庫から49 部隊が参加しました。会場の東端に位置するためアリーナやJHQまで少し遠く、また7月中旬に降り続いた雨のためにジャンボリーが始まる直前に急遽砂を運びこんだのが2SCでした。しかし、そんな逆境にも負けず、サブキャンププログラムの「アイスエイジ3」や、夜間の交歓プログラムは大いに盛り上がっていました。

日本のリヤカー海を渡る!? Topic News

2SCの群馬派遣隊のリヤカーが、アメリカのサウスダコタ隊の指導者の目にとまった。日本人にとって日常的な道具である「リヤカー」が、アメリカ人から見ると素敵な乗り物に見えたようである。「ぜひ、アメリカで孫を乗せてみたい」という申し入れがあり、群馬派遣隊の好意でプレゼントされることになった。サウスダコタ隊をお世話されている栃木県連盟派遣団長の星野さんも「どのようにして飛行機で持ち帰るのか」と心配されていたが、アメリカで日本のリヤカーが動いている光景を想像すると、とても愉快で楽しみである。将来、アメリカジャンボリーの新兵になるかもしれない。



6SC



6SC (近畿ブロック)

千葉、神奈川、東京、静岡、滋賀、京都、兵庫から46 部隊が参加しました。関西方面の隊が多く非常ににぎやかなサブキャンプでした。「風のジャンボリー」らしく、サブキャンププログラムでは風を掲げ、ゲートにも大きな風が飾りつけられていました。



7SC

7SC (近畿ブロック)

埼玉、神奈川、愛知、奈良、和歌山、大阪、福岡から44 部隊が参加しました。サブキャンププログラム「お洗濯は珠洲の天気まかせ」では、地球に負荷をかけない洗濯を実施。洗濯物を干す大きな塔?も目にとまりました。洗濯板も自作です。7SCのテーマは「わ」。「わ」とプリントされたお揃いのTシャツも注目を集めていました。

9SC (九州・沖縄ブロック)

東京、静岡、愛知、大阪、広島、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄から44 部隊が参加しました。JHQやアリーナから少し離れており、のんびりした雰囲気の中、本部近くには「国際交流広場」が設置され広く交流が行われました。大会会での「日向日葵と踊り」が会場の雰囲気盛り上げました。

8SC (中国・四国ブロック)

東京、愛知、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知から42 部隊が参加しました。アリーナ北側で自立していた8SCゲート両側のティピー(インディアンテント)はスカウトらによる手作りです。愛媛第2隊のテントでは、ちょんまげの侍が抹茶を点てる姿もありました。鳥取連盟理事長の岡田さんは、第2回ジャンボリーから今回まですべてのジャンボリーにテントに泊まって参加しているそうです。

8SC



9SC



14NJ驚きデータ集 & 若手スタッフの声

人口約2万人の珠洲市に、同じぐらいの約2万人のスカウトや指導者たちが大集合した14NJ。5日間だけ、そこには「まち」ができあがってしまった!! 「まち」のみんなが必要なものの量は普段のキャンプとはケタ違い!! 驚きのデータを見てみよう。

そして、そんなたくさんの人たちが過ごすジャンボリーで、奉仕隊として活躍していたローバーやベンチャーにもお話を聞いた。

配給・食料関係

薪	135トン
お米(配給部での購入受託分)	13トン
配給食材	26,500 梱包
非常食	30,000 食
お茶	約50,000 リットル
氷	1,500 貫目(5.6トン)
ゴミ袋	17,000 枚



広報部 報道班

千葉・市川第2団 山浦 俊太郎

実際に取材等で仕事されている皆さんの要求は結構厳しいです。現場と板挟みって感じで大変です。



報道受付
PRESS

広報部 情報管理班 取材チーム

(左)神奈川・平塚第7団 秋山 沙由美

(右)東京・墨田第3団 吉永 隆志

睡眠時間が少なくて大変でした。2時半までかかって書いた原稿が載せてもらえなかったこともありましたね。20人いる取材チームは競争率が高くて、ジャンボリープレスに自分の記事が掲載されたのは2回だけでした。(吉永) 私は3回ぐらいかな。(秋山)

選抜プログラム部(ルーフ・シング)

愛知・半田第7団 山本 謙

日陰がないのはつらいです。

おもしろいと言ってもらえる

ても嬉しいですね。ジャンボ

会場から、この蛸島漁港ま

〜30分歩くのですが、その

スカウトが迷子になって探

行ったのが大変でした。

給水所



連日スカウトで盛況なスカウトショップ



ジャンボリーFM局 ジャンボリー最新情報や天気予報、スカウトのリクエスト曲も放送しました。



Jamboree Press
発行回数7回、発行総部数160,000部(毎日発行)



会場に仮設された郵便局

全体行事部
大阪・門真第1団 片桐 貴博
本当は全体行事部なんですけど、人手が足りなくて交通整理してるんですよ。



配給された薪

公衆電話



いつでもスカウトの応急処置に対応できる中央救護所



広報部 庶務班

(左)東京・足立第6団 江川 洋平
(右)東京・青梅第2団 川村 浩毅
報道関係者など年上の人たちと接する機会が多くとても気を使いますが、常に元気で応対するように心掛けています。逆にスカウトたちと接する機会がなかなかないので残念です。

配給部

愛知・長久手第1団 杉浦 彰紀

力仕事全般やってます。感謝される仕事は楽しいし、やりがいがあります。奉仕隊だけで友だちもできました。自分が13NJに行ったときのように、今回来たスカウトたちにもジャンボリーが短かったなと思ってもらえたら嬉しいです。



配給部

愛知・名古屋第112団 間庭 創士

2時間立ちっぱなしで仕事をするので大変です。それが1日3回あるし、朝は5時起きだし、片手だけ使うから疲れるし。でも「大盛り」って言われて、たくさん盛りつけてあげて「いいねー」なんて喜んでもらえたら、自分も楽しんで仕事できます。

設備関係

仮設トイレ	594 穴
仮設水道	362 口
仮設シャワー	380 口
集会用天幕 (H4 型マッキー)	286 張
机	2,211 本
椅子	4,984 脚
電話回線 (FAX 含む)	198 回線 (外線58、内線80、公衆60 回線)

仮設トイレ



全国各地から到着するスカウトを乗せたバス

その他

参加者集散バス 約500 台
その他場内通行許可車両 約850 台
見学者数 約14,600 人 (見学章販売数。のべ人数ではありません)



600 人の収容の本部食堂 (能登特産のいしる汁がおいしかった)



隊活動のヒント

vol.5
カブ編

キーワード：観察・触覚・気づき・表現・春～夏

アクティビティ名	葉っぱ何色？
ねらい	・いろいろな葉っぱを比べることで、葉の緑色にもたくさんの種類があることに気づく。 ・自由に表現する。
内容	組集会（葉っぱ探し・葉っぱの型取り・乾燥～着色） 隊集会（展覧会、発表会など）
指導上のポイント	木粉粘土に葉っぱの型を取りますが、葉っぱの形通りに切り取る必要はありません。好きな形に切り取るのも楽しいですね。色も、使った葉っぱそっくりにしてもいいし、芸術家になった気分ですらちがう色にぬっても、おもしろい作品ができあがります。
準備物	木粉粘土、アクリル絵の具、絵筆、下じき、ハサミ、新聞、水入れ等

<進め方>

組集会（1）

- ①デンリーダーから「葉っぱの話」を聞く。
- ②好きな葉っぱを探す。
- ③木粉粘土をうすくのばす。
- ④葉っぱを軽く濡らして（はがしやすくするため）、粘土の上に置いて軽く押す。
この時、手で直接押すと葉っぱに均等に力がかからないので、下じきなどを当てて押すとよい。
- ⑤ゆっくり葉っぱをはがす。
- ⑥切り取る（次の組集会まで乾かしておく）。



組集会（2）

- ①乾いた粘土にアクリル絵の具で色をぬる。
- ②乾燥（隊集会まで乾かしておく）。
- ③自分の作品（葉っぱ）の名前を考える。

隊集会

展覧会、発表会など、各隊で楽しい催しを考えてみましょう。
（実施日：平成18年6月8日）

スカウト：「葉っぱにギザギザがあるよ。」

スカウト：「こんな色の葉っぱがあるとおもしろいなあ。」（好きな色をぬりながら）

スカウト：「色ぬりが楽しかったよ！」

※木粉粘土やアクリル絵の具は、100円ショップでも手に入りますよ。

アクティビティ考案

藤田 智子（ふじたのりこ）さん

いしかわ自然学校インストラクター

ネイチャーゲーム指導員

写真提供

村上 博司さん

ボーイスカウト石川県連盟

子どもの居場所づくり実行委員長

★ アクティビティ大募集 ★

このコーナーでは、皆さんが隊で実践したプログラムやアクティビティを募集しています。スカウティング編集部「隊活動ヒント・アクティビティ係」まで、どしどしお寄せください。また、編集部と共同でアクティビティを実践してくださる隊も募集いたします。皆さん、ふるってご応募ください！（目次頁下段の宛先まで）

全国ボーイスカウトゆかりの地探訪

番外編：少年団日本連盟 練習船「義勇和爾丸」の模型、寄贈される

東京連盟世田谷第22団 白石勝彦団委員長より「義勇和爾丸」の模型が、世界スカウト運動100周年、東京海洋少年団80周年、ボーイスカウト世田谷地区45周年を記念し、日本連盟に寄贈されました。この模型は先に石川県で開催された平成18年度全国大会で展示されました。

「義勇和爾丸」は、昭和5年（1930年）から昭和13年（1938年）の間、日本連盟が所有していた練習船です。

この船は、明治42年（1909年）、北海道大学（当時は東北帝国大学農科大学）水産学科の練習船「忍路丸（おしよるまる）」として竣工しました。162トン、2本マストの帆船で、オホーツク海などで多くの水産学実習の航海を行いました。昭和2年（1927年）に、老朽化したということで、少年団日本連盟に貸与、昭和4年（1929年）に売却されました。日本連盟は、昭和5年（1930年）にこれを大改修して「義勇和爾丸（ぎゆうわにまる）」と改名し、シースカウト活動に活用しました。

改修直後の昭和5年6月2日には、静岡県へ行幸になった昭和天皇が沼津から重須までの海路をご乗船になる「御召船（おめしせん）」という栄誉を得ました。

さて、「義勇和爾丸」は、東京湾、相模湾、駿河湾などで数々の海洋訓練を行い、昭和9年（1934年）には、皇太子誕生奉祝記念事業として、南洋遠航（1万3,000海里：24,000km）に挑戦しました。この航海に備

え、マストを低くし、搭載している補助エンジンを大きなものに替えたりするなど、大改修を行いました。

昭和9年7月15日に東京・竹芝桟橋を出航、11月4日に帰港するまでの113日間の航海中、一時は大時化に会い、あわや遭難という危機を乗り越えて、台湾、フィリピン、ベトナム、タイ、シンガポール、インドネシア、パラオ、ヤップ、サイパン、父島に寄港し、地元ボーイスカウトなどと交歓、無事帰還しました。和爾丸に乗り組んだのは、最年少が13歳のシースカウト（基本隊）17人、船員隊18人、学術研究班12人、派遣団本部8人、計55人でした。

昭和13年（1938年）3月、和爾丸は三重県の矢湾で座礁してしまいました。船を修復するには多額の費用がかかり、日本連盟にはそれだけの財政的な力がなかったため、廃船とし、売却せざるを得ないことになりました。

売却後、和爾丸は機帆船「海勢丸」として、貨物の輸送に使われました。太平洋戦争も末期の昭和20年（1945年）7月、兵庫県堺沖でアメリカ軍機の攻撃を受け沈没。その生涯を閉じました。



忍路丸時代の義勇和爾丸

●参考文献

「ボーイスカウト運動史」 ボーイスカウト日本連盟 昭和48年
「義勇和爾丸の一生と海洋少年団の発達」 大日本少年団連盟 昭和14年
「海洋少年団練習船「義勇和爾丸」に就いて」 今井章利（『船の科学』平成3年7月号～11月号抜粋）
※模型データ：全長110cm 全高90cm 全幅35cm 縮尺20分の1
製作：白石勝彦



寄贈された模型

明治42年	忍路丸 竣工（トップスルスカーナー） 三重・大湊 東北帝国大学農科大学水産学科練習船 設計：東京帝国大学工科大学教授寺野精一 2万1400円
43年	改造 プリガンティーンに
大正 2年	改造 50馬力焼玉石油発動機搭載（補助機関）
8年	改造（5月）船体とマスト、ヤード、ブームの更新
昭和 2年	少年団日本連盟に貸与
昭和 4年	9月9日 少年団日本連盟に正式売却 1200円
昭和 5年	大改造 義勇和爾丸と改名（補助機関換装、ブリッジ新設、洋式便所等）
昭和 9年	大改造 225馬力エンジン搭載 ロイヤル、トップのヤード廃止 13,000 海里的南洋航海
昭和12年	改造 貨物業務のため 東京、大阪、釜山方面にて、材木、セメント、石油の輸送従事
昭和13年	3月 三重県の矢湾で座礁 5月 市川造船に売却
15年	改造 機帆輸送船 海勢丸と改名 三重県の事業家に売却
18年	三重県の別事業家に売却
20年	竣工より35年5か月 7月10日 堺沖で停泊中に米軍機の機銃掃射により炎上、沈没

～「贈り物」～

宗教関係代表者会議構成員 小林 透

最近、サラリーマンを元気づけようという思いを込めて始まった番組がある。NHK総合で毎週火曜日の夜11時からおもしろおかしく視聴者に話題を提供している番組「サラリーマンNEO」。

先日その中で、「サラリーマン遊びの流儀」というコーナーが放映されていた。このコーナーは、サラリーマンとして仕事の第一線で活躍しながらも、趣味や遊びでも凄い技を持つ人物を追いかける企画で、今回は青木貴彦さんを取り上げていた。この方は、富山市の製薬会社に勤めながら、小学校時代から続けている遊びがある。それが「ヨーヨー」。

かつて一世を風靡したものの、時代と共に影を潜めたこの遊びを一途に続けてきた青木さんのヨーヨーコレクションは100個を越え、小遣いのすべてをつぎ込んだ宝物。

毎日、夕食を終えると3時間の練習に打ち込み、300種類もあるヨーヨーの技をほとんど極め、やる技がなくなってしまう。今度は、自分の長男にヨーヨーを教え、「大人になったら自分の好きなことと仕事を一緒にやれるようなお父さんのようになりたい」とヨーヨーの継承ができたかに思われた。今、長男は高校生になり、「一緒にヨーヨーはやりたいと思わなくなった」と。遊び相手もいなくなった。

それからは、休日を利用してボランティアでさまざまな施設を訪れる。ヨーヨーパフォーマーとして訪れた場所は、延べ300か所を越えている。青木さんは、「本当に爽やかな気持ち。純粋な笑顔をいただく心が洗われまして、ほんとやってよかったという気持ちになります」と語っていた。

青木さんは、「自分が楽しむ」から「人を楽しませる」へと発想を転換した。子どもの頃から極めてきた遊びが、今度は、人を元気にする「笑顔のために遊ぶ」というスタイルに変わった。

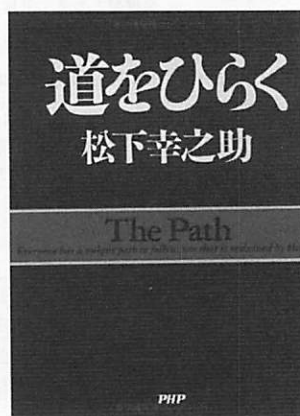
B-Pは私たちに次のようなメッセージを残している。「神から与えられた使命をみつけ、その技を身につけ、今度は他の人に役立たせることが神に対するお返しである」。

私たちが「身につける」ものは、他の人が幸せになるための神からいただいた「贈り物」なのかもしれない。それは、楽し

みながら身につけるという、まさに「スカウティングはゲームである」というB-Pの言葉がふさわしいのかもしれない。



おすすめの冊



松下幸之助が自分の体験と人生に対する深い洞察をもとに綴った短編随想集。これまでに、多くの人が本書に勇気づけられ、また成功への指針としてきたかがよくわかる、時代を超えて生き続ける不変の真理である一冊。業の成功者であり、それ以上に人生の成功者である松下幸之助であればこそ、その言葉には千鈞の重みがある。あらゆる年代、職種の人に役立つ、永遠の座右の書である。

『道をひらく』 松下幸之助 著

発行所：PHP研究所 定価：914円（税込）



スカウトの日2006

アクションシートで6つのステップ

アクションシートの使い方 指導者の皆さんへ

2006年の「スカウトの日」では、活動支援資料として、「アクションシート」というものを提供します。

このシートは、今まで全国で展開されてきた「スカウトカントリー大作戦」が、隊・団で展開される過程を視覚的に表現することができます。

このシートでは、「青少年の参画」をモチーフにしています。これはスカウトたちがより主体的に「身の回りの環境を見つめ直す」ことができるようにするものですが、内容は特別なものではありません。ふだん、隊指導者がスカウトたちと活動していることを一枚に表しているだけです。

「なぜ環境のための活動をするのか?」「スカウトカントリー大作戦って何だろう?」、たいていの場合、活動を始める時、隊指導者の皆さんはスカウトたちに「スカウトの日」の趣旨を説明しています。ピーパーには紙芝居などを使ったり様々な工夫があることでしょう。最初のこのステップから、スカウトの日に向けて準備や計画などを行い、実際にスカウトたちがスカウトカントリー大作戦を展開、そしてその中から見えてきたことを考え、次の行動を考えるというステップが「アクションシート」に詰まっています。

step インプット、共通理解

1 作業前に何を自分たちが行おうとしているのかを確認します。年齢に応じて、リーダーから聞いた話をまとめてみたり、自分たちで調べたりした内容をまとめます。

step コースづくり (企画)

2 自分たちのコースを決めます。コースがある程度決まっている場合は、場所を確認することになります。この段階で簡単な地図、できれば白地図を作ったりします。

step 実施

3 実際にスカウトカントリー大作戦を行います。缶を拾いながら、自分たちの地域の観察を行います。この中では記録を写真やスケッチなどを使って残します。これはこの後のふりかえりに利用します。

step ふりかえり

4 時間軸に沿って記録を整理しながら、気づいたことや感じたこと、疑問に思ったことなどを考えます。

step 予想

5 観察した場所が将来どうなっていくのかを予想します。良い点、悪い点などがどのように変わっていくかなどを考えます。

step 今わたしたちにできること

6 予想した事柄から、どのような対応が求められるかを考えてみます。

平成18年度「スカウトの日」実施要項 (抜粋)

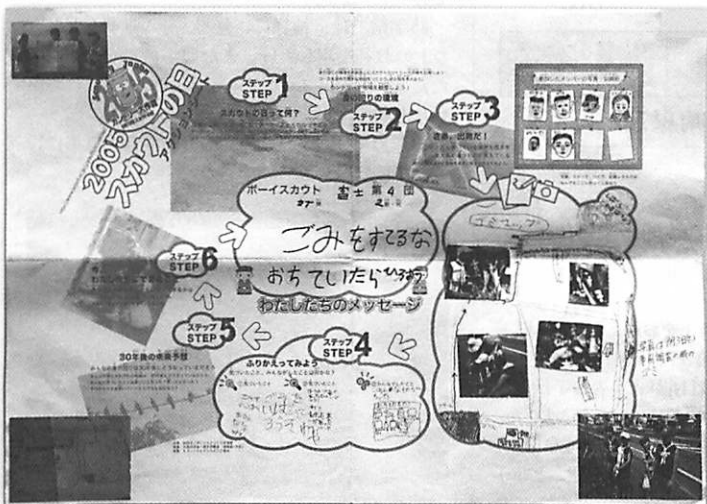
- 期 日 平成18年9月18日 (月)
祝日=敬老の日(9月第3月曜日)
- 主 催 財団法人ボーイスカウト日本連盟
- 後 援 文部科学省・厚生労働省
環境省 (予定)
- 協 賛 セブン・イレブンみどりの基金
- テーマ スカウトカントリー大作戦
ー「平和について考え、行動しよう!」ー

私たちの国(カントリー)に心豊かな社会を作るために、スカウトが空缶回収(缶トリー)をはじめとする様々な活動を行い、地域社会に貢献することを期待してこのテーマを設定します。今年は2007年のスカウト運動創始100年を目前に、世界のスカウトの仲間たちが「平和」に関する活動をそれぞれの地域で展開していくことにしています。スカウト一人ひとりが、今の地球上に起こっているさまざまな問題について考えながら、それぞれの地域で、それぞれのやり方で行動していくことが期待されています。2800万人の仲間たちで大きな輪を作りながら、「平和」をキーワードに行動しましょう。

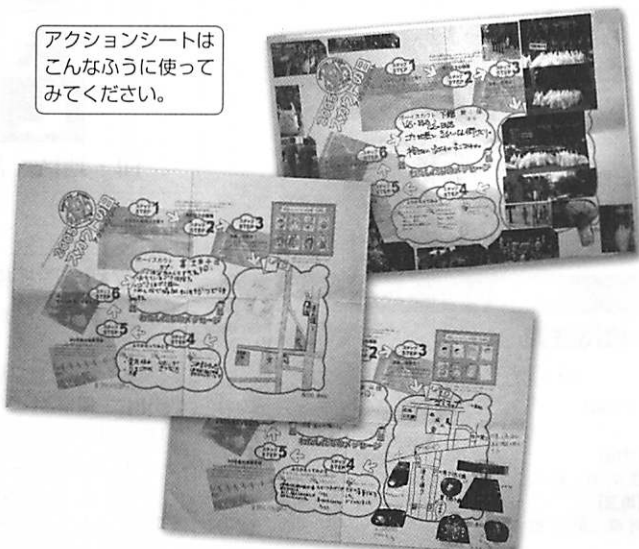
なお、今年も活動資材として花の種を配布します。より美しい街づくりのための活動や、環境美化活動にご活用ください。

■わたしたちのメッセージ

行動についてのメッセージです。自分たちの約束、意気込み、行動のための第一歩、かけ声、みんなへの呼びかけなどメッセージを考えます。



アクションシートはこんなふうに使ってみてください。



INFORMATION

SEPTEMBER
2006

日本連盟からのお知らせ

■県連盟コミッショナー会議幹事会の開催(報告)

日時: 7月1日(土) 11:00~16:00
場所: 東京・YMCAアジア青少年センター
出席: 篠田・清水教育本部副コミッショナー、
中島代表幹事他5人
協議事項: 1. 平成18年度第1回県連盟コミッ
ショナー会議の評価について
2. 記章・標章等の見直しについて
3. 第2回県連盟コミッショナー会議の
開催について
4. 第3回県連盟コミッショナー会議の
開催について

■第16回全国スカウトフォーラム運営委員会 (第1回)の開催(報告)

日時: 7月16日(日) 13:00
~17日(月・祝) 12:00
場所: 静岡・熱海 MOA瑞雲会館
出席: 上道プログラム委員長他8人
主な内容: 本年9月に開催予定の全国スカウトフ
ォーラムについて、フォーラムの進め方を
確認しながら、今後の準備について企
画しました。また、同フォーラムでは、
全国からローバー年代のアドバイザーを
公募しており、この人選についても検討
しました。

■世界スカウト運動100周年記念 平成19年度全国大会実行委員会(第2回)開催(報告)

日時: 7月21日(金) 13:30~16:00
場所: 東京・日本工業倶楽部
出席: 橋本委員長他4人
協議事項: 1. 平成19年度全国大会について
1) 参加要項骨子
2) 主な大会内容
3) 運営組織
2. 記念レセプション実施概要について
他

ご支援ありがとうございます

*維持会員(敬称略) スカウト運動を財政面からご支援いた
だいている個人・法人会員の方々です。

[2006年度6月度]

【北海道】	宮腰 武喜	住吉 敏男
B S 札幌 26	菊地 英雄	【神奈川】
【秋田】	【千葉】	西村 哲夫
佐々木 耕二	高橋 昭二	【山梨】
【埼玉】	菊地 康介	平賀 武彦
高橋 昭次郎	杉 村 直	渡辺 徳之

【東京】	高野 英孝	笠嶋 義憲	平野 進
【新潟】	植田 命	森地 一夫	
齊藤 真憲	山崎 幸夫	【鳥取】	中尾 徳明
本間 守	藤嶋 昭二	浦川 淳一	
上村 光司	吉田 真美子	中尾 喬一	
井伊 光訓	前田 健一	【岡山】	山田 貞秀
渡辺 清	西野 哲夫	塩飽 孝昭	
【石川】	【長野】	【山口】	横山 貞次
加藤 教英	犬飼 康元	【愛媛】	余土 橋 B S
【福井】	山崎 康生	今城 英一	
天井 定美	青木 桂子	【佐賀】	高柳 孝寛
平沢 邦彦	青木 桂子	【長崎】	藤田 孝
古市 謙三	【静岡】	【宮崎】	橋田 和実
内藤 義介	BS振興財団会議員連盟	【日本】	荒尾 雅也
大刀 隆雄	【愛知】	河合楽器製作所	長田 光夫
八木 繁太郎	服部 武行		
陶山 治男	【京都】		
田中 廣昌	種子田 隆男		
龍 義則	荒尾 雅也		
辻裏 宏明	【兵庫】		
松田 有仙	杉本 光俊		
側力ナニシ金物	苦瓜 一夫		
宮本 勝	吉田 政治		
前川 俊弘			

■『スカウティング』読者モニター募集

編集部では、『スカウティング』の内容を充実さ
せ、より質の高い密度の濃い編集・誌面作りをは
かるため、読者モニターの制度を取り入れていま
す。毎月の記事の中でよかったもの、悪かったも
の、ご意見や疑問点等をいただいております。毎
月『スカウティング』送付後アンケート用紙をお送
りし、郵送やEメールで返信いただいております。
期間は1年間です。下記応募先に、ハガキ・FAX・
Eメール等でお申し込みください。多くの方の応
募をお待ちしております。

<モニター応募先>

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 4-11-10
財団法人ボーイスカウト日本連盟
『スカウティング』モニター 係
TEL 0422-31-5163 FAX 0422-31-5162
Eメール pr@scout.or.jp



ローカルホットライン

☐団
☒地区
☒都道府県連盟
☐その他

行事報告
活動報告
...etc

団・地区・都道府県連盟だより

岐阜

第57回全国植樹祭に参加しました

□ 下呂第1団 団委員 奥田 一徳

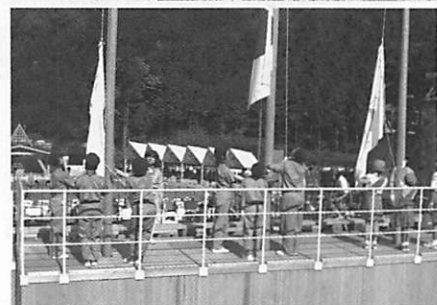
このたび、天皇后両陛下をお迎えして岐阜県下
呂市にて開催されました第57回全国植樹祭(平成
18年5月21日)に、下呂第1団が式典のお手伝い
という栄誉いただきまして参加させていただきました。
当団からは三旗掲揚(国旗、大会旗、岐阜県旗)
と天皇陛下よりお言葉を賜る際、マイクを運ぶとい

光栄な部分でお手伝いをさせていただきました。

中学生8人でこの任務にあたりましたが、ボー
イ隊およびリーダーと団委員とで合計30数人が式
典に参加させていただくことができました。

本年下呂第1団は発団40周年を迎える年になっ
ておりまして、記念に残る年になりました。

また来年の開催地北海道でもスカウトが式典に
参加されるということで、北海道連盟からも視察
の方がおみえでした。



岡山

勸学祭

□ 西大寺第1団

ボーイスカウト西大寺第1団は、金光教西大寺
教会を育成母体としていることから、例年4月に
小林互教会長(団委員長)を祭主として「勸学祭」
を行っています。

勸学祭では、神様に、無事入学・進級したスカ
ウトのお礼を申し上げ、また勉学成就をお祈りい
ただき、学業とスカウティングの両立を神様に願
います。

本年は4月1日(土) 午前10時から、厳粛に行
われました。



東京

東京農業大学カレッジ講座「集まれ!!農大探検隊!!」

■ 世田谷第12団 東京農業大学農友会ローパークル部

きっかけ...

東京農業大学では学生を対象とした講義の他に一般の方を対象とした「カレッジ講座」というものがあります。この「カレッジ講座」を運営しているキャリアセンターの前所長であり、我がローパークル部の部長である高橋克己教授から「子どもたちと触れ合う機会が収穫祭以外にもあってはどうか?」という提案から、今回の「集まれ!!農大探検隊!!」を企画・実施することになりました。

東京農業大学では毎年、秋に収穫祭という学園祭を行っています。この収穫祭の中で、我がローパークル部では教室を会場に、子どもたちを対象とした「遊び」を企画し、一日一回のオリジナル劇もやっています。

我が東京農業大学農友会ローパークル部は東京・世田谷第12団であり、世田谷第12団はローパークル部のみの、いわば大学ローパーです。そのため、通常の団とは異なり年少部門を持ちません。同世代との交流が中心の私たちにとって「カレッジ講座」の話は願ってもないものでした。

計画...

収穫祭で子どもたちを楽しませる計画を立てているとはいえ、丸一日のスケジュールを計画することは大変でした。プログラム内容はもちろんのこと、対象年齢、実施場所、時期などを考慮し、デイキャンプを計画することになりました。去年の11月から本番当日の6月17日まで、計画期間は長かったのですが、当日はその計画の難しさを忘れさせてくれるほどの充実感を与えてくれました。

本番...

6月17日の「集まれ!!農大探検隊!!」では小学1年生から小学5年生までの20人の子どもたちが参加してくれました。子どもたち4人、ローパークル3人をつきの班とし、5班に分かれプログラムを行いました。班名はトマト班、なす班、大根班、にんじん班、かぼちゃ班と農学にちなんだ名前になりました。

8時半に全員が集合し、開会式を行いました。班に分かれ自分の名札を作る時、人見知りする子どもも少なく、どの班も初めて顔を合わせたのが信じられないと思うくらい仲が良かったです。開会式後、グラウンドへ移動し、最初のプログラムであるオリエンテーリングの開始です。このオリエンテーリングは、ローパークルを東京農大内と「食と農」の博物館に置き、やってくる班員にクイズを出すというものです。クイズは6か所6問です。その1問を紹介しします。

問) 農大名物であるどら焼きは何の卵でできているのでしょうか?

選択) 1)にわとり 2)エミュー 3)アヒル 4)カラス
答え) 2)エミュー

(エミューはダチョウより少し小さい鳥です)

この問題では実際にどら焼きを味わってもらいました。他には、本学の馬やブタが登場した問題や、今まで見たことがないであろう「ジャンパーの木」や「石油の木」、しょっぱい味のする植物の問題、今

回特別に見ることができた羽のないわたりの問題などです。どれも実際に見たり、触ったり、食べてみたりする問題ばかりでした。東京農大だからこそできることです。このオリエンテーリングでは学内をあちこち回るため、子どもたちに我が大学の雰囲気も感じ取ってもらえたと思います。

その後昼食では、私たちも合宿などでよく食べるバクトーストを作りました。牛乳パックとアルミホイル、マッチがあれば簡単にホットサンドが食べられるのです。マッチを使ったことがない子どもたちがほとんどでしたが、みんなすぐにつけられるようになりました。ライターで火をつけるのは簡単ですが、マッチでの火のつけ方を覚えるのもいいことだと思います。

おいしいバクトーストを食べ、午後からはレクリエーションをしました。まずは壊れないシャボン玉作りをしました。シャボン玉作りは広いグラウンドをいっぱい使って、みんなが思う存分シャボン玉を空に飛ばして遊びました。

次のプログラムは障害物競走と目隠し借り物競走、フォークダンスのジェンカをやりました。朝から元気いっぱいだった子どもたちも午後は静かになりましたが、このプログラムは班対抗ということもあり、今まで以上の元気に加え、楽しさが爆発していました。自分の班の友だちを声を張り上げての応援には、司会・サポートも驚いていました。小学1年生から5年生、18歳から22歳の大学生が一緒になって一つのことに、お互い負けないくらいの楽しさを共有することは素晴らしいことだと思います。



体を思いっきり動かしたので、お腹もすいてきます。夕食はカレーライス、デザートは手作りアイスクリームです。外で、ストーブを使ってご飯を炊くのを見たことがある子どもはほとんどいなかったと思います。普段は炊飯器では炊いていても、今日はばかりはコッフェルを使って炊きます。意外にも炊飯器以上においしく炊けるんですね。カレーを煮て、ご飯を炊いている間にアイスクリームを作ります。このアイスもバクトーストのように簡単で、牛乳、卵黄、生クリーム、砂糖を混ぜて作ったアイスクリームの素を蓋のできるアルミ缶に入れ、二つに切ったペットボトル片方の中に氷と塩を一緒に入れ、もう片方で蓋をし、ガムテープで固定し、あとはビニールにくるみ、シャカシャカ振るなり、ボールのように蹴っていただいいのです。10



気が崩れてきたので、体育館でのキャンドルサービスとなりましたが、みんなの興奮は変わりませんでした。ダンスをし、今回「農大探検隊」としての修了証として、パッチをプレゼントし、感想をみんなから聞きました。子どもたちみんなから「面白かった」と口をそろえて言ってくれました。最後に大根を持ち東京農業大学名物「大根踊り」をしました。

閉会式後、お父さんお母さんと一緒に帰っていく中、楽しかったと言いついてくれる子どもや、このデイキャンプで作った友だちや班と一緒に行動した部員との別れを惜む子どもたちもいました。若干疲れているようにも見たものの、表情はみんな笑っていました。みんな楽しんでくれたのです。

デイキャンプを終えて...

無事に終わりほっとしています。ローパークル部総出で企画・実施したデイキャンプは参加した子どもたちはもちろん、保護者の方にも喜んでもらえ、私たちとしては大変満足しています。ただ、もう少しプログラムを工夫したらさらにいいものができると思いました。今回、日本テレビの取材もあり、忘れることのできない思い出になりました。子どもたちにとっても忘れられない思い出になったのではないかと思います。

大学ローパーということと部員の大半が大学からのスカウトということもあり、普段の活動は部員のみでの合宿や企画によるものばかりなので、なかなか他団のスカウトや地域の人と交流が持てない状況です。ですが、今回のように地域の子と私たちとデイキャンプを楽しめたことは、これからの僕たちの部としての活動、スカウトとしての活動に大きな幅をもたらしてくれると思います。



栃木

■ 河内第1団

下野新聞 (2006.6.8)

ボーイスカウト 30周年迎える
【河内】ボーイスカウト河内第二団(住吉和夫団委員長、七十五人は、今年創立三十周年を迎えた。「清く正しく美しく」の精神で、これまで三百七十人の青少年を育成、将来を担う人材を大勢輩出してきた。記念誌「光のみち」も作った。団員は当初、宇都宮第一団に会い、活動してきた。町内での入会希望者が増加したため、一九七六年四月に河内第一団として新たなスタートを切った。誠実さ、快活さ、勇敢さを持つて行動することなどを基本理念に、ロープ結びなどの技能訓練、募金や清掃の奉仕など体験を重視した活動をして

環境大臣表彰に選ばれました

当千厩第1団の長年の活動が認められ、4月29日みどりの日に「自然環境功労者環境大臣表彰」をいただくことができました。

私は副トレーナーとして「研究課題」を提出しなさい、という問い合わせを毎回憂鬱に思っていました。毎回、何気なく「テーマを決め」提出していましたが、ある年の研修所奉仕の際、他の人の講義を聞いていたら、「環境問題」について真剣に講義しておられ、環境問題を私のテーマとすることに決めました。

また別の方が「記憶並びに、記録の大切さ」の重要性を話しており、家に帰るやいなや今までの活動記録を整理してみますと様々な資料が出てきました。

中でも、平成に入り役場の環境衛生の担当者より依頼がありました「水生生物調査」に関しては、調査開始より川が汚くなってきていることを知り、地域の人たちへの啓蒙活動も兼ねて、新聞に掲載していただきました。

その後、環境に関することをプログラムに入れ日々活動して参りましたが、中でも北東北3県で行っています「北東北子ども環境サミット」「エコクラブ」「国道のごみ拾い」等の活動を続けていきましたら、千厩地域振興局が中心になり「川の清掃活動」をする団体を集め「弓手川結いネットワーク」を作り、2年間補助金もいただき多くの備品を揃えることができました。

活動は、ボーイスカウトが中心になり、毎年2回千厩川の清掃活動を実施しています。

今回の大臣表彰は、トレーナーとして与えられたテーマに沿って活動してきた私の集大成といえるものかもしれません。しかし私一人では何もできません。スカウトを始め、指導者、県連盟、また地域の方々の協力があったからこそ、改めて深く感謝しています。今は、ボーイスカウト活動をしてきて良かった、と心から思っています。

私にとって残された課題は、未だとても小さな団ということです。

今年は幸いにも一人増員になりましたが、まだまだ地域の方々に認知されていない状態です。

当地区は子どもの数も少なく、野球、ソフトボールが盛んな町で、全国大会に毎年行っている状態です。そんな中、隊員の確保は至難の技ですが今後とも努力し、一日も早く大きな団へと脱却していきたいと思っています。

ボリースカウト千厩第1団

この表彰は、自然環境の保全・顕著な活動があった個人、団体にあえて二十一人、団体に在る者として、本年度に「環境賞」が実施された。環境活動部門（いきもの環境）より以下に示す部門（ふれあい部）、園遊会・学習研究部（二歳児喜劇部）の三部門を対象に表彰している。今年度は、全国で個人十八人、二十四

きょう表彰式

本典からは、ボリースカウト千厩第一団新築町分団小淵澤小学校が、「いきもの環境賞」により部門別で受賞した。

ボリースカウト千厩第1団 昭和四十年一月一日から平成三年六月までは、中心部を担った千厩（写手）の水質生活（写手）水質生活

千厩川の水質保全担う 40年超える活動評価

[illegible]

岩手日々新聞(2006.4.28)

浅井市長に受賞報告

BS千蔵 環境大臣表彰に輝く

[illegible]

功勞者として四月二十八日、東京都の新宿御苑で小池百合子環境相から表彰された。

受賞報告には、千田田舎園長と奥玉真代ペンチヤ一隊長、団員の川村殿君、千坂小長校六年Ⅱ、清水隆也君、西五年Ⅱの四人が市役所を訪れ、浅井市長に賞状を披露。浅井市長は「きれいな自然環境にしようという自然な活動で、これからは続けていかなさ」と祝福した。

岩手日々新聞(2006.5.4)

安全講習会を実施

夏の活動シーズンを前に、去る6月18日(日) 鹿児島県連盟主催で、安全講習会を開催しました。

午前中、鹿児島市消防局による「救命講習」。今回は AED（体外式自動除細動器）の取り扱いを中心実施しました。

午後は、県連盟トレーニングチームによる、安全管理に関する講習を行いました。

団委員5人を含む37人の指導者が受講しました。



投稿お待ちしております

本誌では読者の皆さまからの投稿を常時受け付けています。投稿が掲載された方には、掲載誌と記念のキーホルダーをお送りしています。投稿は、文字数400字・写真3枚を目安にしてください。新聞掲載記事は、新聞名・掲載日を書明してください。なお、お送りいただいた写真や新聞記事は原則として返却しませんのでご了承ください。

お送りいただいた投稿は、抜粋しての使用や一部を編集させていただく場合があります。また掲載できない場合もあります。予めご了承ください。

たくさんの投稿をお待ちしています。

[宛先]

T 181-0015

東京都三鷹市大沢 4-11-10

財団法人ボーイスカウト日本連盟

広報チーム スカウティング投稿係

〈Tel〉 0422-31-5163

〈Fax〉 0422-31-5162

〈Eメール〉 pr@scout.or.jp



新刊書紹介

世界スカウト運動創始100周年記念出版 『自分のカヌーは自分で漕げ —少年たちへの助言—』日本語版



ロバート・ベーデン・パウエル 著
飯岡 美紀 訳
B 6判
本文 142頁
発行 日本連盟
平成18年5月26日
定価 750円(税込)

この本の原書初版は、1939年にロンドンで発行された。

ベーデン・パウエルは1938年、イギリスからケニアのニエリに移り、パクストゥと名づけたコテージで夫人とともに暮らした。ベーデン・パウエルは、本書出版の2年後、1941年1月8日に他界した(享年83)。



パクストゥ (PAXTU)

最晩年の創始者がスカウトに贈った助言集(tips)である本書は、テーマ別に23編の話で構成されている。人間や人生の在り方について様々なエピソードを通して考えを示している。「観察と推理」、「自分で学ぶ」、「愚か者

になるな」、・・・「感謝」、「礼儀」、「善意」、「名誉」、「勇氣」、「ユーモア」、「責任」等、スカウトのおきてを思い起こさせる項目が並び、題材はアフリカでの生活やこれまでの自分自身の体験や見聞を基にしたものが多い。興味深く読めて、わかりやすい。また、各編に自筆のイラストを載せていることが読みやすさを増している。

ベーデン・パウエルの筆致は、「スカウティングフォア・ボーイス」から一貫して、率直かつ素直でユーモアがあり、自信に満ちていながら自分の考えを押し付けるようなところがない。本書も同様である。また、本書からはベーデン・パウエルの鳥や動物たちに対する深い愛情と興味が読み取れる。偉大な自然をより深く知ることと、信仰に目覚め確立していくことを関連してとらえたベーデン・パウエルの考えの基礎を見るような気がする。

さて、この時代、世界情勢は戦争に向かって進んでいた。ヒトラーのナチス・ドイツがオーストリア、チェコスロバキアを併合した後、ポーランドに侵攻して第二次世界大戦が勃発したのが、本書発行年の1939年である。時代の情勢が反映された記述が本書にも見られる。

本書はスカウトにも読みやすく、また大人にも楽しく読めるもので、創始者の物の見方・考え方、さらにその人柄や価値観を知るうえでも大変適した書籍であり、世界スカウト運動創始

100周年記念出版としてふさわしいものといえよう。☑

『わが高原 霧ヶ峰』



(コロボックル・ヒュッテ50周年記念出版)
A5判 ハードカバー
本文296頁
著者 手塚宗求(てづか・むねやす)
発行 山と溪谷社
平成18年5月1日
定価 2,100円(税込)

この本は、日本一小さな山小屋といわれる霧ヶ峰の「コロボックル・ヒュッテ」(定員10人、営業山小屋として最小の規模)の主人で、エッセイストでもある著者が、山小屋創設50周年を迎える(平成18年)にあたって、霧ヶ峰高原のすべてをまとめようと執筆したものだ。

高原の自然、地理、歴史、風物、人々にまつわる46編で構成されている。50年間霧ヶ峰の大自然と過ごした著者の語り口は、淡々として極めて具体的にわかりやすく、野外活動に役立つ知識や知恵も多く記載されている。

自然とともに長い時間生き抜いた著者の実体験や見聞に基づいたしつかりした記述に、思わずつり込まれて読んでしまう一冊。☑

<この本のお求めは一般書店で>

読者の“声”

～スカウティング誌について～

◆今回はジャンボリー会場で、直接ご意見を伺いました。

●全国ボーイスカウトゆかりの地探訪

◆毎月、楽しみにしています。休載だとがっかりします。

◆指導者の間でも、話題になっています。

●隊活動のヒント

◆今後は、実際に全国の隊が活動しているプログラムを、より具体的に紹介してほしい。

●日本連盟からのお知らせ

◆研修の案内など非常に役に立っています。

◆まずこの頁から確認します。

◆手もとに届いたときには情報が古くなっていることがある。インターネットなどをもっと活用すべき。

●ローカルホットライン

◆他の団の活動を知ると、とても勇気づけられます。制服で卒業式に出席したスカウトの投稿を見て、もっと広がるといいなあと思いました。

●スカウトショップニュース

◆品質のいいものだけをスカウト用品として紹介し、それを一般の人でも買えるようにすれば、よい広報活動になるのではないのでしょうか。

●その他フリートーク

◆内容が昔にくらべて固いと思います。年2回のクラブスカウトはスカウトたちに好評なので、以前のように毎月2冊にするのが難しいなら、前半と後半で指導者向けスカウト向けに内容を分けてみてはいかがでしょうか？

◆偉い人のコメントを減らして、実際に活動されている人の声を多く載せるべき。

◆内容を内輪だけのものにするのではなく、スカウト募集に使えるようなものにしたいほうがいい。

◆スカウト活動の紹介を読み物として読める内容にすれば広報誌として使えると思う。

◆ホームページの作り方や、インターネットを使う上でのルールなどを載せてもらえると嬉しい。現在のスカウト活動において避けて通れないものであり、そこが整備されれば、隊同士の交流も増えると思う。

◆今回のジャンボリーのようなイベントの後、そこで出てきた課題をみんなで解決していけるような場になればいいと思う。

◆活動に役立つような専門家の話をたくさん聞きたい。

◆今のスカウトや指導者は、ロープワークなど基本的なことを徹底的にやる必要があると

思うので、そんな特集をしてほしい。

◆情報に重点が置かれ、自己研鑽的な内容のものが少ないと思う。

◆以前はじっくり読み込んでいましたが、最近はパラパラ読めちゃう印象です。

◆世界のスカウトのことをもっと知りたい(世界ジャンボリーでどんなことをしたのかなど)。

◆昔のスカウトグッズを紹介してほしい(スカウトが出ているグリコのパッケージや少年マガジンの表紙など)。それを見れば、一般の方にもボーイスカウトが身近なものになると思う。

◆日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブや、日本スカウト切手協会などの活動も紹介してほしい。

◆値段を安くしてください。

◆会議などの内容がスカウトたちにも、わかるようになったらいいと思います。

◆見たことありません。

■皆さんの声をお寄せください。

目次頁記載の宛先まで、ハガキ、FAX、Eメールなど、お気軽にどうぞ。記事リクエストも歓迎です。掲載させていただいた方には記念品をお送りします。お気軽にご意見いただけるよう投稿者名は掲載していませんが、匿名での投稿はお受けしていません。☑

あなたもぜひ参加してください この夏撮ったたくさんの写真、お待ちしています!

スカウティング・フォト・ライブラリー

日本連盟では、ボーイスカウトの各種PRや、スカウティング誌、スカウトカレンダー、各種パンフレット類などに使用できるデジタル写真ライブラリーの整理・充実を図っていきます。このライブラリー作りにぜひご参加ください。

■参加の方法

- ボーイスカウトの各種PR、機関誌等で活用できそうな写真を、Eメール添付でお送りください(随時受付)。
- メールのタイトルは「フォトライブラリー提出」などとしてください。
- メール本文に1. 提供者(撮影者)の氏名・所属・住所・電話番号、2. 提供いただく写真の簡単な説明(「04年春の県キャンボリーで撮影」など)を記載してください。デジタル写真のデータはより細密なものを歓迎。複数枚同時添付でも結構ですが、メール全体のデータ量が1件につき4MBを超えない範囲でお願いします。各写真データには次項の要領でファイル名をつけてください。

送信先 (財)ボーイスカウト日本連盟広報グループ
アドレス pr@scout.or.jp

※なお多数の写真を提供いただける場合、CD-Rなどのメディアに記録したものを郵送いただいても結構ですが、各写真データのファイル名を次項に従って整理いただけますよう、お願いします。送付先は目次下に記載の日本連盟宛でお願いします。

■ファイル名のつけかた

お送りいただくデータは、ファイル名を「2006××●●●●●001.jpg」としてください(撮影年(西暦)+所属県+氏名+写真番号3桁)。たとえば東京連盟所属の三鷹山正太郎さんが昨年撮られた写真、5点ご提供の場合「2005 東京三鷹山正太郎 001」～「同 005」というような具合です。ファイル名は写真使用時のクレジットに直接反映しますので、何卒よろしくお願いします。

なお画像ファイル形式は原則として「jpeg」形式とし、必ず拡張子「.jpg」を付してください。

■使用条件・プライバシーポリシーなど

- 提供いただく写真は、提供者本人が撮影したもので、肖像権を有する人物および建築物などが写っている場合は、提供に際し本人(未成年の場合はその保護者)の承諾を得てください。
- 過去コンテストに入賞した作品や応募中の作品は対象外とします。
- 提供していただく写真の著作権は(財)ボーイスカウト日本連盟に帰属します(ただし、提供者本人が所属の団、地区、県連盟などの広報活動等に使用する場合は、これを制限しません)。
- 提供いただいた写真は提供者に予告・事後通知なく、ボーイスカウト運動普及・振興のために活用しますが、原則としてファイル名につけられた所属県・お名前を基本として「(例) 撮影: 東京・三鷹山正太郎」とのクレジットを添えることとします。
- ポスター・カレンダー、その他機関誌での主要カットなどで使用した場合には、原則として掲載した媒体を提供者に贈呈します。また使用に際してはトリミングや画像加工処理なども施す場合がありますので予めご了承ください。
- なお、被写体となった方の個人を特定できないよう、名札類、団号章などの画像は処理加工を施したうえで使用します。
- 提供いただいた写真の返却はいたしませんので、予めご了承ください。

■確認次項: 重要

ご提供いただく写真は、メール受信および郵送等での受領をもって上記の使用条件などを提供者が承諾したものとみなします。ご提供時には必ず上記の使用条件を再確認のうえ、送信をお願いします。



SCOUTING

スカウティング
2006年9月号 No.640

CONTENTS

- 14NJ速報
「あいの風」を受けて・・・
スカウトたちの熱い5日間……………P.2～3
来賓の方々の挨拶……………P.4～5
僕らの大切なジャンボリー……………P.6～7
サブキャンプの風……………P.8～9
14NJ驚きのデータ集&若手スタッフの声……………P.10～11
隊活動のヒント……………P.12
全国ボーイスカウトゆかりの地探訪 番外編……………P.13
信仰心を育むために「贈り物」……………P.14
スカウトの日 2006……………P.15
おしらせ・読者のページ……………P.16～19
スカウトショップニュース……………P.21
楽しかったジャンボリー……………P.22～23

発行所 財団法人ボーイスカウト日本連盟
編集責任者 事務局長 金井昭二

住所 〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
TEL 0422-31-5161
FAX 0422-31-5162
URL http://www.scout.or.jp/
Eメール pr@scout.or.jp

●◎財団法人ボーイスカウト日本連盟/写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟 広報チームまでご連絡ください。

■バックナンバーをご希望の場合は、日本連盟 広報チームまでご連絡ください。

■本誌は再生紙を使用しています。

「スカウティング」の定期購読をされていて住所変更された方は、お手数ですが下記に記入して、FAX または切り取ってハガキに貼るなどしてご連絡ください。

「月刊スカウティング」定期購読者用 住所変更届

(フリガナ)				
(氏名)				
(所属)	連盟	第	団	(役務)
(新住所)				
(新電話番号)				
(登録番号)				

2007 スカウトカレンダー (年間行事シール付き) 品番-68407 ¥630 (税込)



(写真は2006年カレンダーです。)



**2007
カレンダー
予約販売中**

スカウト運動創始100周年記念年の思い出となるカレンダーです。ぜひお求めください。
1か月ごとの見開き

- 予約申込期間：10月15日まで
- メリット期間：9月30日まで (日本連盟必着)
- メリット期間中に50部以上をご注文いただくと名入れ印刷をさせていただきます。
- 勝手ながら50部以上のご注文は10部単位でお願いいたします。

100周年記念品



トートバッグ

品番-70233 ¥700 (税込) **NEW**

100周年の記念標章をトートバッグに直接刺繍。集会や会合にはもちろん、ショッピングにも使える便利なバッグです。
サイズ：本体39.5 X 47cm 素材：無漂白10号帆布

新刊書



「ベンチャースカウトハンドブック」改訂版

品番-62326
¥630 (税込)、A5判 192頁
改訂内容：現行ハンドブックの見直しと増補。資料編の充実 (ベンチャープロジェクト書式別/スカウトフォーラムの歴史/スカウト運動の歴史/技能章全項目・細目を加えた)。

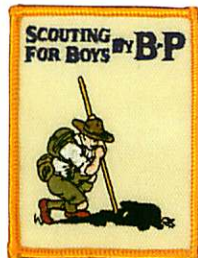


「コミッショナーハンドブック」改訂版

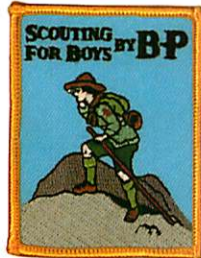
品番-69905
¥1,050 (税込)、A4判 109頁
改訂内容：平成17年の日本連盟の機構改革に対応する改訂版。スカウト運動の基本事項に関する「基本編」、コミッショナーの役割別の「各論編」および「資料編」の3部構成。

ワッペンSFBシリーズ

「スカウティング・フォア・ボーイズ」6分冊の表紙をアレンジした刺繍製のワッペンシリーズ No.2, No.3, No.5 をお届けします。



SFBワッペンNo.2 観察
品番-79599 **NEW**
各¥210 (税込) 刺繍製、サイズ：7.5 X 5.5 cm



SFBワッペンNo.3 登山
品番-79600 **NEW**



SFBワッペンNo.5 旗
品番-79602 **NEW**

■ご利用にあたってのお願い

- お求めは県連盟・取扱協力店まで。またボーイスカウトカードをお持ちの方は日本連盟でもお求めいただけます。
- 日本連盟へのご注文はBSカード専用の注文書がありますので、ご連絡いただければ送付いたします。日本連盟のインターネットホームページからダウンロードもできます。
http://www.scout.or.jp/jf/info/download/download_etc.html
- お支払いにつきましては、ボーイスカウトカードおよび代金引換(代引)のみの取り扱いとさせていただきます。

- ファクシミリ [0422-31-5169 スカウト用品専用] でご注文をお受けいたします。
- カードは計画的にご利用ください。

★ スカウトカタログ2006-2007等の情報はインターネットでもご覧になれます。
URL：<http://www.scout.or.jp/jf/info/supply/catalog.html>



※当カードは、オリコ・UC・VISA取扱店や、海外のVISA取扱店でもご利用になれます。

やっぱ最高! 楽しかったよ~ジャンボリー 友だちも思い出もいっぱいできたよ~。

あつという間に過ぎてしまったジャンボリーの5日間。灼熱の太陽の下で
暑い暑い日々でしたが、スカウトたちはいつも元気いっぱい
参加したスカウトからHOTなメッセージをいただきました



色々な人と触れあ
合える 4年に一度
の一大イベント!!
東京3隊品川地区グループ



ジャンボリー
サイコへ!!
また4年後に!!
石川 実津子



あと10日
キャンプをしたい!!
石川 実津子



天口6隊
一漁



このお祭りでは by 100% 体当たりで ちゃん by? 砂まき 東京スフィンクス! 東京9隊 八王子桑部隊



ボーイスカウトになろう!

ボーイスカウトは子どもたちの自発的な活動を大切に、経験豊富な指導者が見守る中で、子どもたちは『たくましさ』『自主性』『社会性』『協調性』などを学びます。



ボーイスカウトになると...



たくましさ

自然の中でキャンプやハイキングを通して元気な子どもになります。



自主性

食事だって自分たちで作ります。



社会性

野外活動を通して仲間と自然を知り、友情を深めます。



協調性

年齢の違う仲間が助け合って、一つのことを成し遂げます。



財団法人

ボーイスカウト日本連盟

入団のお問い合わせは フリーコール 0120-333-159 ホームページ <http://www.scout.or.jp>

SCOUTING

2006/9 040

昭和33年12月15日 第3種郵便物認可
平成18年9月1日発行 毎月1回1日発行

編集長 佐々木 幸夫
〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
電話 0422(31)5161(代)

郵便振替 00110-1-82610
口座名義 (財)ボーイスカウト日本連盟

4 931187 663251